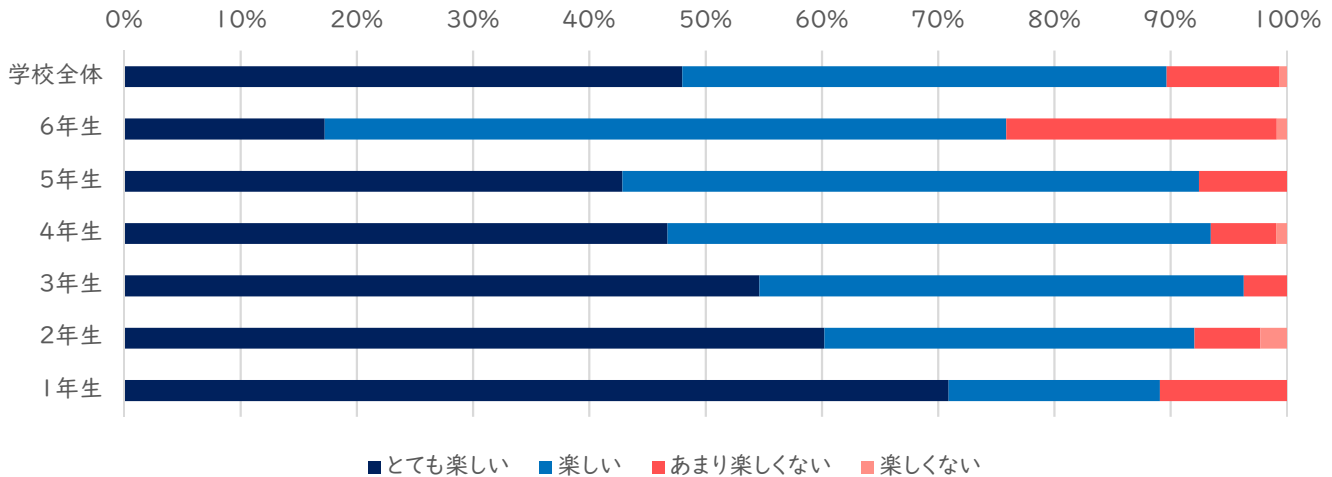


外国語科に関するアンケート調査結果

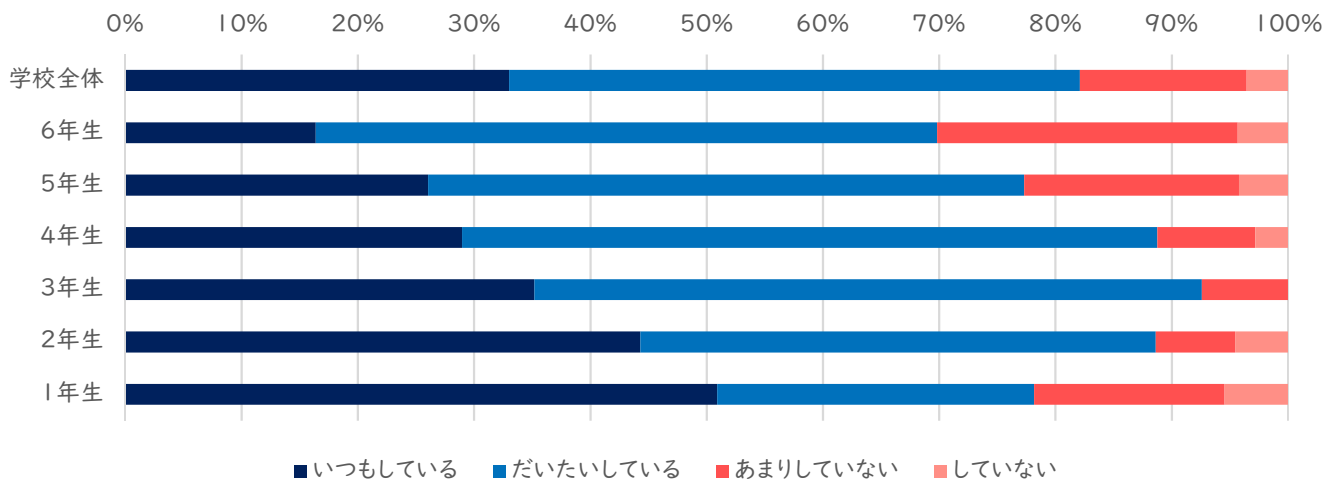
【児童へのアンケート結果から】

1. 外国語科の授業は楽しいですか。



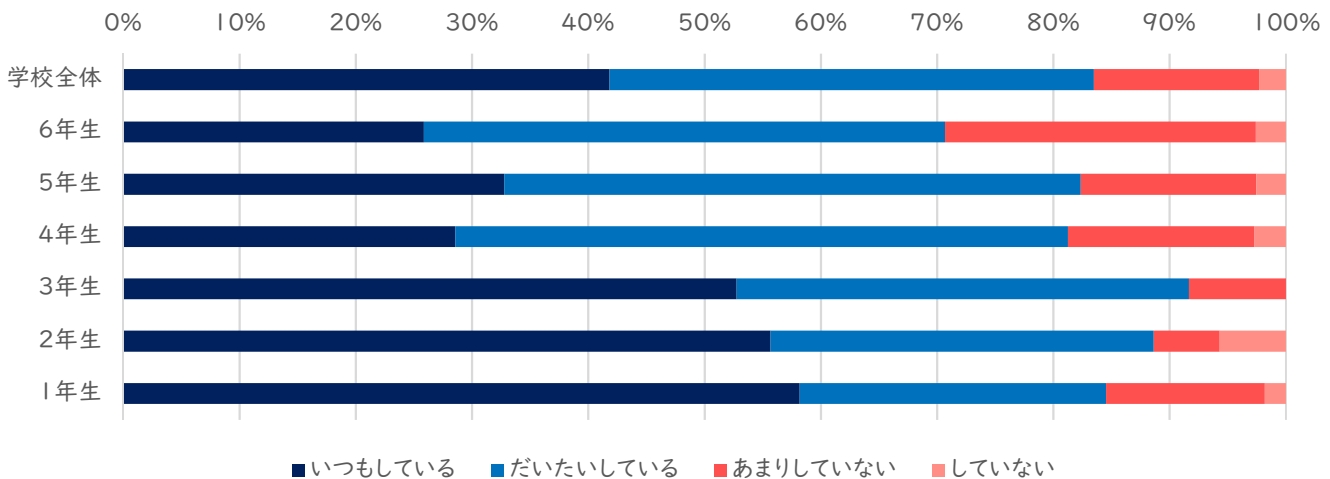
学校全体の約90%の児童が外国語科の授業が楽しい(とても楽しい・楽しい)と答えている。1年生から5年生までは「楽しい」と答えている児童の割合が8割を超えている。それに対し、内容が高度になり、ゲームなどの活動が減り始める6年生ではとても楽しいと感じる児童が減少している。そのため、高学年で重視する伝え合う活動の楽しさを感じられるような工夫を増やしていきたい。

2. 相手に伝わりやすいようにはっきりした大きさの声で話すことを心がけていますか。



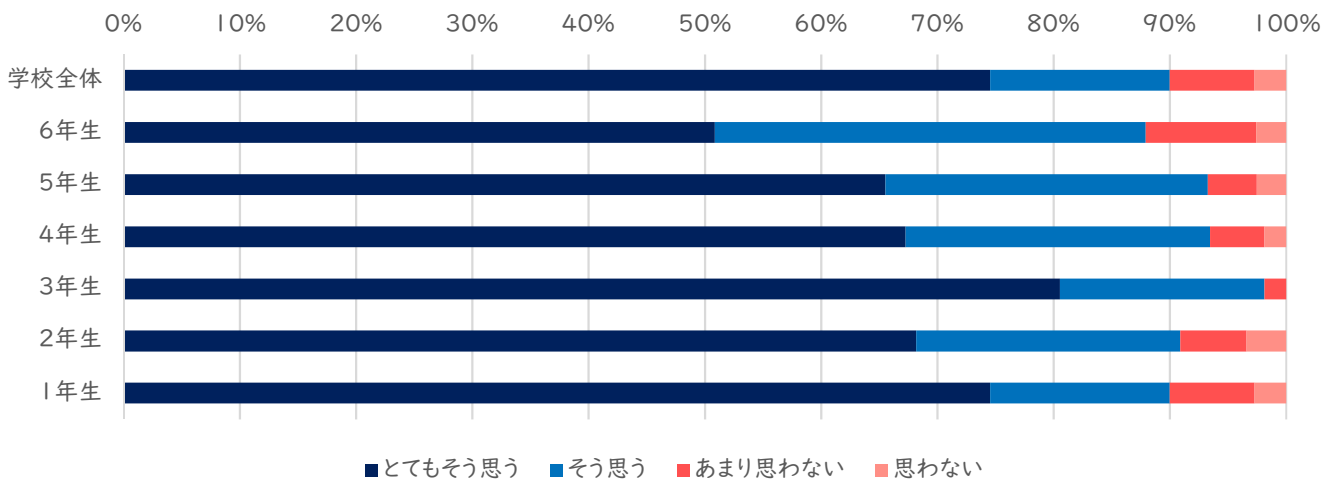
学校全体の約80%がしている(いつもしている・だいたいしている)と答えている。ペアトークやグループトーク、発表など、必要な場面でははっきりした大きさの声を意識している児童が多い。しかしながら、全体での発表において緊張感、自信のなさや恥ずかしさから声が小さくなる実態がある。特に6年生にその様子が見られる。ペアやグループの活動で自信をつけて全体での発表につなげられるようにしたい。

3. 相手の目を見ながら会話することを心がけていますか。



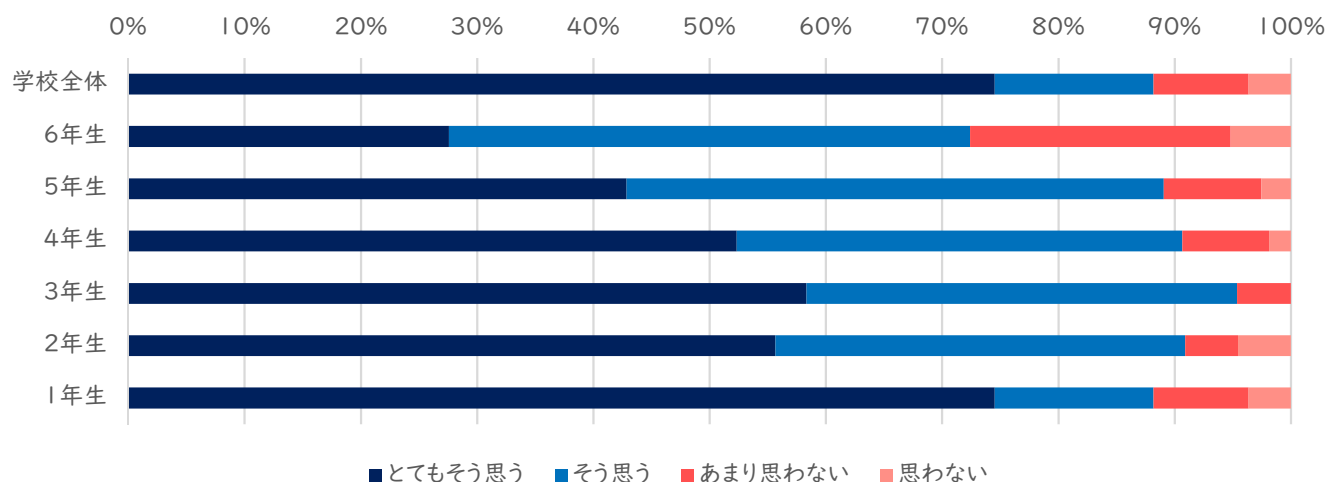
学校全体の80%以上の児童が、相手の目を見ながら会話することを心がけている(いつもしている・だいたいしている)と答えている。ペアトークやグループワーク、発表の前には、目を見て話すことを意識している児童が多い。高学年になるにつれて内容が難しくなるため、伝え合う活動で使用ワークシートを見ながら話してしまう実態もあるが、相手の目を見ながら会話するよう声かけを継続することで、相手を見て話そうと調整する姿も増えてきた。

4. もっと英語が話せるようになりたいですか。



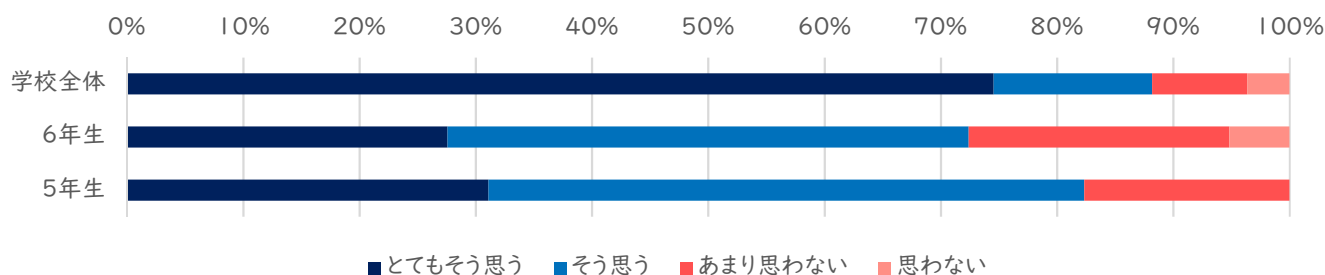
学校全体の約90%の児童がもっと話せるようになりたい(とてもそう思う・そう思う)と答えている。1・2年生ではゲームや歌を通して英語に慣れ親しみ英語単語を言うという活動を、3・4年生ではコミュニケーションタイムというペアで前時の既習表現を使って話す活動を、5・6年生ではスモールトークという英語のやり取りを聞いて内容について考えてからペアで既習表現を使って話す活動を行っている。そこでは、生き生きと英語を使って話そうとする児童の姿が見られる。得意・好きと感じている児童はもちろん、苦手・嫌いという児童も「話すのは嫌いだけど、話せるようになりたい」と、話せるようになりたい気持ちをもっている。ALTのさらなる授業参加により、もっと話せるようになりたい、という気持ちを高める工夫を継続していきたい。

5. 外国語科の授業は好きですか。



学校全体の80%以上の児童が好き(とてもそう思う・そう思う)と答えている。ゲームや歌、チャンツなど、様々な表現活動を取り入れながら英語に親しんだり、友達と伝え合ったりする活動に楽しさを感じ、好きだと感じていると考えられる。4年生以上になると内容も難しくなり、苦手さを感じる児童が増えていると考えられる。コミュニケーションの楽しさや意義を実感できるような言語活動を実施し、英語がわかる・できると感じられるような工夫をしていきたい。

6. 外国語科の授業はわかりますか。(5・6年のみ)



5年の約80%、6年の約70%の児童が授業がわかる(とてもそう思う・思う)と答えている。内容が難しくなることから、ゲームを取り入れて表現や語句に慣れ親しむ活動をしたり、児童が興味をもつ話題や人物を扱うなどして理解しやすいようにしたりするなど、授業づくりの工夫を図ってきた。しかしながら、約15%の児童がわからない(あまり思わない・思わない)と答えており、特に6年生では約3割がわからないと感じている。この結果を真摯に受け止め、児童がわかると実感できるよう次年度の授業作りでは単元構成や帯活動、言語活動の工夫に取り組んでいきたい。